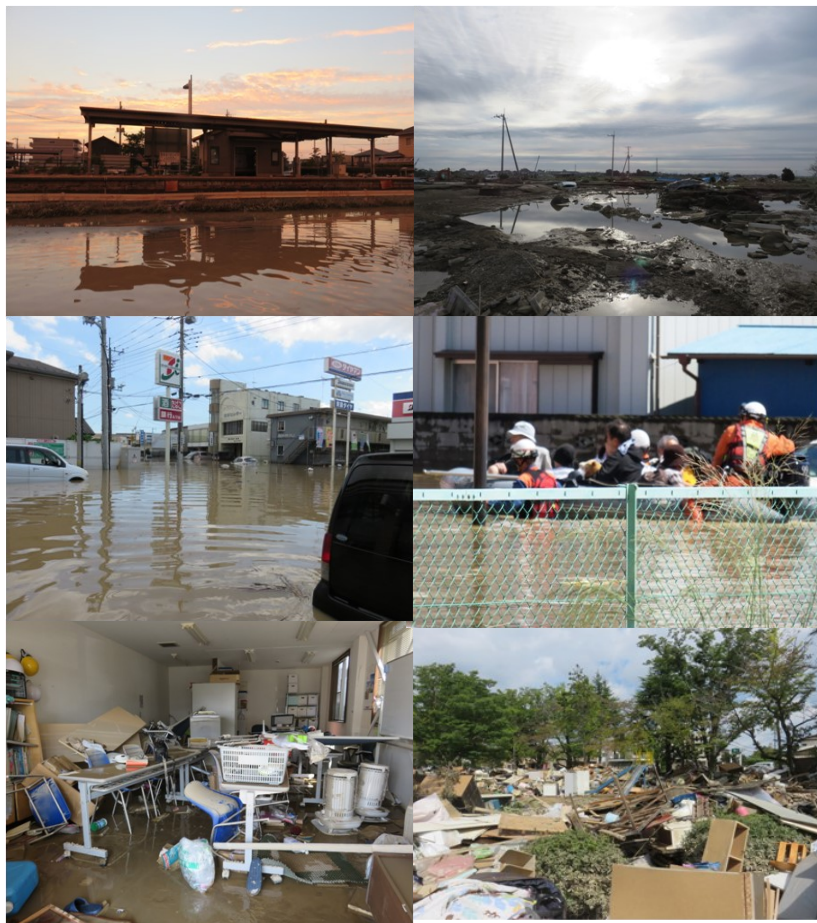


豪雨災害に備えるガイドブック

災害発生時、避難生活、生活再建
常総市の被災者の取り組みから



たすけあいセンター「JUNTOS」
認定NPO法人 茨城NPOセンター・コムズ

1日目 大雨が続き、浸水被害が近づいたとき

2015年9月10日（木）13時に自宅から8km北で鬼怒川の堤防が決壊した。
18時頃には鬼怒川の水で水位が上昇。近くに歩いて行ける避難所もなく、

やることリスト

行った方が良いことの内容

災害発生予測と
情報収集

テレビやラジオなどで、近くの川の水位の情報や洪水の危険度や警報を確認（テレビはつけたままに）。

避難準備

↓
避難勧告

↓
避難指示



家族の帰宅
に関する連絡

外出している家族に連絡し、交通機関が動いているうちに家に戻ることを打診。

避難所の確認と
避難先の検討

避難所になっている場所を見に行き、どのタイミングで避難するか、何を持っていくかを考える。

乳幼児や高齢者が家族にいる場合、洋式トイレの有無、階段や手すり、スロープなどを確認。ペットがいる場合、一緒に連れて来られるかも要確認。一緒に避難できる環境ではないと思ったら、別の施設、知人宅等、避難先を考えることは非常に大切。

買い出し

店が開いているうちに、水、インスタント食品、パン、日持ちする食べ物や防災に使うものを購入。カセットコンロや懐中電灯、ブルーシートは有効。

車の避難

近くに高い場所があれば、車を移動するのは非常に大事。知人や近所で協力して二人の運転手がペアになり1台ずつ移動できれば車は助かるが、かなり早い段階で行わないと水が迫ってからではできない。車も水に浸かれば中のものは皆泥だらけになるので、大事なものは取り出しておく。

- ・避難準備・
高齢者等避難開始
- ・避難勧告
- ・避難指示（緊急）

勧告発令が近く、住民に避難準備を呼びかけ高齢者など要配慮者の早期避難の呼びかけ
災害発生が迫っていて立ち退きを勧めるもの
既に災害が発生またはその恐れが高いとき

被害を最小限にするためにできること

16時くらいに雨水溝から水が急にあふれ周辺の道路が冠水して動けない。
我が家は自宅に留まり、逃げ込んできた人と一晩不安な夜を過ごす。

常総市在住のあるNPO役員の行動と教訓



「大雨特別警報」「記録的短時間大雨」などの言葉が出たり、雨雲が動かず降り続ける「線状降水帯」の話が出た時はかなり危険な状況。

川の上流地域の降水量がものすごく、実際に鬼怒川を見たら左の状況でした。「今回は水が来る」と感じ、私は下記の行動を取りました。避難指示が出たことはわかりませんでした。

道路が冠水したり、橋が通行止めになることや電車が止まることを想定して外出中の家族と連絡を取りましょう。我が家は電車が止まって、息子が帰れなくなり、知人宅に泊めてもらいました。

隣に住む両親を早めに避難させるべく、近くの高校へ行ったら「ここは避難所ではない、〇〇高校へ」の張り紙がありました。〇〇高校の避難所は物資は何もなく人も少なかったので、まだいいか」と思いました。その場が2km離れていたのに食料もある自宅で様子を見ることにしました。しかし水に囲まれ動けなくなり、翌日ボートで救助されました。避難指示が遅いからではなく、避難する場が近くにないから逃げ遅れるのです。

8km上流で決壊した後もスーパーの店内に緊迫感はありませんでした。我が家は防災用品や食料は備蓄していたのでブルーシートと土嚢袋を買いました。空き地の土を掘る時スコップを買えば良かったと後悔しました。

地下からの想定外の急な浸水で家の周りが水で囲まれました。川のような道路を走るのはとても怖かったので引きかえし、近所のスーパーの駐車場に停めました。それが最後で我が家は2台廃車にせざるをえませんでした。車の避難は、人より半日以上早く、まだ余裕があるときすべいです。



持ち出すもの の準備

非常持出袋に重要なもの（通帳、印鑑、財布、携帯、充電器、薬とお薬手帳、免許証、鍵）と懐中電灯を入れ玄関の近くに置く。

1階のものを 2階へ上げる

床上浸水に備え、1階にあるもののうち大事なもの（家族の写真アルバム、ビデオカメラ、権利証など）を2階や高いところに移動

水の確保

水や電気が止まることを想定し、お風呂に水を張る。この水はトイレに水を流したり、身体や物を洗う時に重要になる。

物置や庭にある ものの移動

屋外の物置の中で濡れたら使えなくなるものを移動。自転車もできれば高い場所に移動。

着替えの準備

避難所などに行くことも考えて3日分の家族の衣類、特に下着、ジャージ、タオル、洗面道具、生理用品を用意する。

移動する場合 の靴の準備

水の中を歩けるよう長靴、運動靴を用意。浸水している道路を歩く際は、溝など深みに足が落ちる可能性があるので杖の代わりに棒を探すこと。

家の浸水を防ぐ ためにすること

勝手口、大きな窓など水が入ってきそうなところにタオルとガムテープなどで目張りをする。

土嚢袋が用意できれば玄関の外側に積んでバリケートを作る。土嚢袋と砂は事前に用意しておく。玄関の内側には厚手のブルーシートを敷き、上から重しを置く。

下水管が雨水で逆流を起こすと、トイレから水が溢れそうになる。捨てても良い布を便器に詰めるなどして汚水が溢れてこないようにする。

トレイを使える ようにする

停電、断水となるとトイレが使えなくなる。災害用のトイレ（ビニールと凝固剤のセット）を準備しておけばトイレの心配をしなくて済む。

焦ると何を持ち出すか考えられなくなるので、持ち出すもののリストは必ず作り、持ち出しパックを用意し、食料と水を備蓄しておきましょう。

お金で買い戻すことができないもの、思い出の品を失うのは辛いことです。子どもの学用品、制服、部活の道具も失くすと辛いです。

災害が近いと感じた時はお風呂の水は入れたままにするのが無難です。



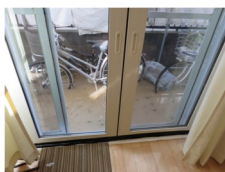
東日本以来の備蓄が役立った

災害用の発電機が物置で水に浸かり、肝心な時に使えずショックでした。自転車も泥に浸かると故障する可能性があります。車を亡くした時、自転車はとても重要になります。パンクしやすいので空気入れも重要です。

着替えは、前もってバックに入れておくと安心です。

ベランダや窓からボートやヘリに乗って救助される場合は、靴を履かないと降りてから困るので靴は大事。水害でまず欲しくなるのは靴です。

実際に水位が床の高さを超えると浸水してしまう可能性は高いですが、家に残る場合は、浸水を防ぐためできるだけのことをしようと思いました。



土嚢袋はホームセンターで買いましたが、中に入れる砂がなく、近くで土を掘って入れました。かなり骨が折れました。玄関の内側にブルーシートを敷いたので少しは浸水を止めることができました。

流し台やトイレから、逆流でボコボコと音がするのがとても不気味でした。

多めに災害用トイレキットを備蓄していたので1週間は大丈夫でした。近所にも配ったらとても喜ばれました。



9月11日（金）朝、水位上昇が床下ギリギリで止まり床上浸水を間逃れる。生活は困難になる。ヘリでの救助を覚悟したが、家族はボートで救助された。

周囲の状況の 情報収集

テレビは見られないので、ラジオで周辺の道路や橋の通行止め情報、鉄道、電気、水道の被害状況を確認。家の周りの冠水状況を見つつ、水がどれくらいで引くかを考える。

電源の確保

家族や職場との連絡や情報の受発信のために携帯の充電ができる状況が重要。携帯は電池式の充電でも1日くらいはもつが、パソコンでネットを見るときに非常用電源が使えるかは重要。車が使えて、電源コンセントが使えるインバーターを積んでいると車が電源になる。

家族の避難先 の選択

避難所に行くか親戚や知人宅に行くか家族で相談。知人宅の方が食事、風呂などは困らないが気を使うことにはなる。日頃からの人づき合いが重要。

避難先への 移動

車も使えず、道路が冠水していると移動はボートかヘリに頼ることになる。いずれも最低限のものしか持たず、ペットは乗せてもらえない。ヘリの場合はほとんど何も持ち出せない。早めに車で避難すれば衣類や様々なものを持って逃げられるが、在宅避難しボートに救助される際は、ほとんど物を持ち出せない。これが逃げ遅れた場合のデメリット。

避難する前に 家の写真を

床上浸水の場合、床上何センチまで浸水したかが判定で重要になる。室内の写真を撮ることは重要。家を出る際にはブレーカーを落とし、鍵をかける。

ライフライン が止まった 自宅での生活

太陽光発電の非常電源が使えたとしても昼間のみ。冷蔵庫は詰め、パソコンと携帯充電器の充電などに電力を当てる。

調理はカセットコンロでインスタント食品やパンを食べる。昼間の明るいうちに、食べ物を机に出しておく。



自宅や避難所での過ごし方

しかし朝から停電。浄水所も水没し水道が止まる。こうなると自宅での家族は親戚宅、自分は自宅での避難を選択。

昨夜から自衛隊などがボートで救助を始めていました。朝から無数のヘリが上空にいて、とてもうるさい状況になりました。



ソーラーパネルによる非常用コンセントが使えるか試し、最初はエラーでしたが、電話でメーカーに聞き操作したら、非常コンセントが使える状況になりました。

昼だけでも電気が使えることがわかったことと食料の備蓄があったこと、トイレも使えたことで一人で家にとどまる決心ができました。

親戚宅に家族と隣の親の五人を避難させてもらえることになり一安心。知人宅の息子も迎えに行ってくれることになりました。もし近くに親戚宅がなければ、避難所に行くことになったでしょう。

義父は最初は家にとどまると言いましたが、生活できないのでと説得し、わかってもらいました。2階のベランダからヘリに乗せるのは不安でしたが、たまたま家の前をボートが通ったので家族を乗せてもらいました。家族は一度避難所に行ってから親戚宅に何とか移ることができました。

(逃げ遅れで怖いのは夜間の急な水位の上昇です。実際に1メートル以上の水が家に押し寄せてきた方は全身びしょ濡れでボートで救助され避難所に入った人もいました。)



電源ゼロだと家に留まる選択肢はなかったと思います。東日本の時は停電で水槽がだめになったので今回は非常電源で酸素を送り命を守りました。

自分が自宅に留まったのは、床下浸水で済み、安心できるところに家族が移れた状況で、被災地の中から状況を全国の仲間に発信するのが役割と考えたからです。近所では数世帯、ライフラインがない家で暮らしていました。恐ろしいことに水害初日の夜から泥棒が出没していました。防犯のために家に残るといったケースもあるのです。

人が居なくなった街、電気がない家にいるのは寂しいですが、自分で選んだこと。自分は布団で寝られるだけ恵まれている。避難所はもっと大変だと自分に言い聞かせました。

避難所での生活

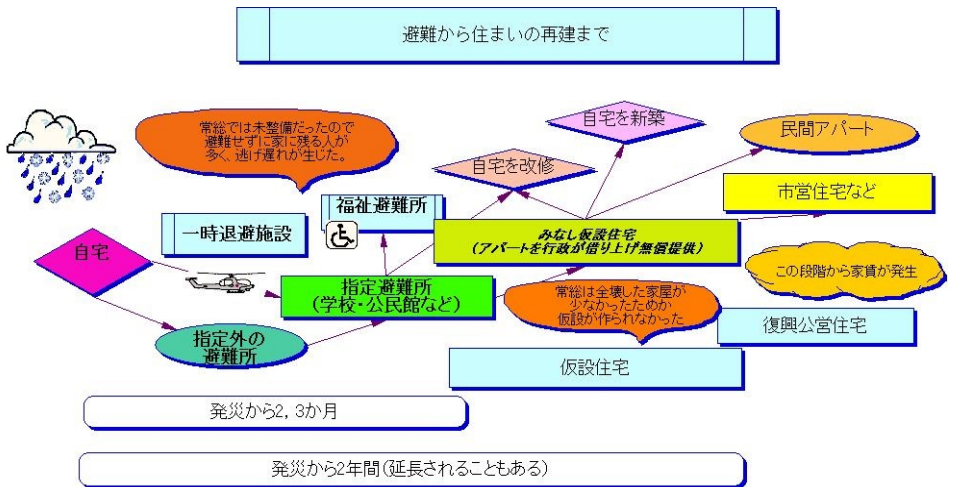
受付した後、指定された所で過ごすことになるが、間仕切りや段ボールベットはしばらくしてからでないと入らないので毛布だけかもしれない。

具合が悪い場合は、受付や医療支援スタッフに申し出た方が良い。乳幼児や高齢者がいる場合も我慢せずに困っていることを話した方が良い。

避難所の運営体制ができていない段階では、受付の人に話すだけでは動いてもらえないかもしれないが、困りごとを聞きに来るボランティアに話すと、個別に支援してくれることもある。

避難所生活のメリット・デメリット

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・風呂と食事がある ・お金を使わなくて済む ・炊き出しやイベントが多い ・支援物資を得やすい ・ボランティアと繋がりやすい ・話し相手がいる ・新聞が置いてある | <ul style="list-style-type: none"> ・周りに気を使う ・プライバシーを守りにくい ・ペット同伴が難しい ・離れていると帰宅が困難 ・家の片付けが遅れやすい ・通学や通勤に不便 ・いつ閉鎖・統合されるか不安 |
|--|--|



自分の家族は今回は親戚の家に行けたので避難所には行きませんでした。

東日本大震災の際にとある避難所へ物資を届けに行った際、「ステージに色々支援物資があるのに配ってもらえない」とこぼす人がいました。避難所の運営体制ができず混乱していたり、避難所リーダーが「我慢しましょう」というタイプの人だとなかなか物資が行き渡らないものです。

私はある母親から特大サイズのオムツが欲しいと言われ、何度か届けたことがあります。

行政は災害時でも公平にしなければと考えるあまり、対応が遅くなりがちです。ボランティアは違う立場なので個別対応ができます。泥かき以外にも色々なボランティアがあります。ペットの一時預かり、洗濯の代行、送迎ボランティアなどのチラシが避難所にあったら相談してみましょう。

在宅避難生活のメリット・デメリット

- ・周りに気を使わずに住む
- ・2階があれば布団で眠れる
- ・ペットが居ても共に居られる
- ・泥棒の侵入を防げる
- ・自宅の片付けを早くできる
- ・通勤を再開しやすい
- ・やはり我が家が一番落ち着く
- ・風呂に入れず、料理も作れない
- ・電気や水がないと暮らしにくい
- ・片付けに追われ休む間もない
- ・支援物資が届きにくい
- ・ボランティアとつながりにくい
- ・愚痴を話す人・時間がない
- ・行政の支援情報が届きにくい



どちらを選ぶ？



自主防災組織の二つの目標

モノを揃えても、「避難所に行けば安心」という状況がないと、避難が遅れます。安心な状況をつくるには、住民も参加して徒歩での避難訓練と避難所開設訓練を行い、必要な資機材や物資を整備しておくことです。

もう一つ大事なことは、家に戻ったとき、食料や物資が受け取れる地区の体制づくりです。何人分の食料が必要か確認するためメールなどで連絡体制をつくることと地区に物資供給拠点をつくるのが大切です。この2つを具体的に進めていけば、避難所も行きやすくなり、家に戻ってからも一定の支援が受けられます。行政任せや人任せにせずに実践しましょう。

水害から3日目～ 水の次は泥との闘い

実際には家の周囲の水がなくなったのは4日目でしたが、
自宅は床下でしたが職場は床上70cmの浸水でひどい状況でした。

道具の確保

あらゆるものが泥まみれになっている中、片付けを始める前に最低限のものを用意する。雑巾、大量のタオル、ゴミとなったものを入れるビニール袋、バケツかそれに代わるものをかき集める。

水の確保

水道が出れば良いが、止まっている場合は、溜めておいた風呂の水をアウトドア用の給水タンクかペットボトルなどに入れて使う。水道が出たとしても水が汚染されている可能性があるので飲むのは不可。井戸水も検査結果が出るまで飲まない方が良い。

衛生面・安全面で留意すること

洪水の場合、下水など不衛生な水に浸かっている。乾くとそれが土ほこりとなり、吸い込むと危険。

必ず防塵マスクをつけて掃除は行うようにする。

ばい菌が入ると破傷風になることもあるので手袋も付け長袖を着て肌を露出させない。マスクとタオル、ウェットティッシュ、ジェル状の指先の消毒液、ビニール手袋、長靴、そして飲み水は必需品。



掃除の前に

住宅の被害を行政が判定する際に、床上のどこまで浸水したかが一つの目安になるので、家の中の様子、壁や窓に残っている泥水の線を写真に撮ることが重要。家以外の被害も写真に撮っておく。

漏電に注意

ブレーカーを切らずに避難して、戻った時にブレーカーが落ちていたら漏電しているかもしれないので電力会社に相談する。

濡れた家具の

運び出し

床上浸水であれば、まずタンスや机をどかして濡れた畳を外に出す。

最も労力がいる作業なので、できるだけ知人やボランティアに協力を求めた方が良い。

システムキッチン裏側が乾きにくくカビの元になりやすく、合板でできたタンスも後からカビが出ることもある。

家と生活の再建のためにすること

ここでは水が引いた状態で何をするかを紹介します。
その部屋の片付けや水没した車の処理のことなどを紹介します。

水を運ぶ際、焼酎の持ち手付きのペットボトルがなぜか家にあり役立ちました。行政指定のゴミ袋がどこも売り切れで、指定でないゴミが出せないという噂が流れパニックになりかけましたが、市に確認したら「生ゴミだけ分ければ市販のビニール袋でも良い」と言われ、安心しました。

幹線道路が開通すると市外から応援の給水車が来ます。そこでキレイな水がもらえます。常総市の場合、最初はどこに給水車が配置されているかが防災無線で流れず、ほとんど人が来ていませんでした。

臨時の救護所もそうですが、どこで被災者向けの支援が行われているかを在宅被災者に伝えることが大切です。私は瓦版を作ることにしました。

病院も被害を受けていると閉鎖されますが、日赤などがテントで救護所を開設する場合があります。大怪我でなければ無料で治療が受けられます。

持病があり定期的な投薬を受けている場合は、病院に連絡してどこで薬をもらえば良いか相談しましょう。

避難所ではビタミン不足になりがちです。食料も、おにぎり、パンしかもらえませんが、私は、ビタミン剤を買って避難所にいる近所の人などに渡しながらか、家の様子を伝え、励まして歩きました。



水が出ないときは、軽トラに大きな農業用の給水タンクを積み、水を持っていくことを考えましたが、自宅の近くは思ったより早く水道が出たので、高圧洗浄機が使えました。

板などに染み込んだ泥を落とすのは雑巾では大変です。水道と電気が使える場合、高圧洗浄機があるとすごい威力を発揮します。ただし、水圧が強すぎて壁に傷をつけることもあるので扱いには注意が必要です。



隣の妻の家は床上浸水で畳やタンスを外に出しました。市が用意した災害ごみの仮置き場は普段は車で10分のところですが、捨てにいくと4時間かかるという話を聞き、やむなく近くの児童公園に運びました。

タンスなどは道端に出せば市の指定業者が回収してくれますが、畳はそうはいきません。軽トラと人手をどう確保するか、どこへ持ち込むかで悩みます。ボランティアに手伝ってもらうことが良いでしょう。

車の廃棄処分

購入したディーラーと車の保険会社に状況を伝える。エンジンに水が回るとはぼ使えないし感電の恐れがあるのでエンジンもかけない。

車の登録抹消の手続きをしないと自動車税が引き続きかかるので、確実に手続きをしてくれる業者に託す。車を引き取るという人が来た場合、不安であればナンバープレートと車検証は残して自分で抹消登録する。

電化製品

水に浸かった場合、購入した家電の店か詳しい人に聞いてから判断した方がよい。携帯は電源を入れずに、SIMカードなどを外してショップに相談する。

トイレや風呂は、スイッチなど電気系統が濡れていなければ使える場合もある。エアコンも室外機が浸水すると故障する場合がある。

床下の水や

泥のかき出し

フローリングの場合、床下を覗ける点検窓から床下の状況を見る。床の下に断熱材がありそれが濡れている場合は早めに取り除いた方がよいが、床下に潜る作業はとても危険なため、業者が災害支援の経験が豊富なボランティアに依頼した方がよい。



床下の消毒

床下が土なら消石灰を畳一畳に茶碗2杯程度撒く。

(消石灰は保健センターなどが無料配布する場合がある)

消石灰は土に撒くものでコンクリートなどに撒く必要はない。消石灰が肌に触れると火傷の危険があるので扱いに注意する。



水に浸かったモノの消毒とカビ対策

オスバンSやエタノールなどの消毒剤を床、壁、家具などに噴霧してカビが出るのを防ぐ。必ず説明に沿って水で薄めて使う。カビ対策は風通しを良くして乾燥させることが重要。



愛車のプリウスは、タイヤの上まで浸かっていないからと期待しましたがダメでした。車内も泥水を吸ってひどい状態でレッカーで運んでもらいました。

車はリースでしたが、代わりの車が来るわけではなく、リース料の残金を払われました。車の任意保険の車両保険でその分は払えましたが、カーリース会社の災害対応は要注意です。



エアコンの室外機は内部の基盤がどれだけ水に浸かったか、濡れても乾けば使える場合もあるので、引き取り業者が来たとしてもすぐに処分しない方が良いでしょう。

自宅は電気温水器の室外機の部品交換で10万円支出。職場のエアコンは室外機の修理で20万円かかりました。買って数ヶ月でしたが、水害は補償対象外でした。

「工事の見積もりが500万円と言われた」と相談に来たフィリピン人の家を見に行ったところ、床下に泥水が溜まっていました。水害対応の経験があるボランティア・チームに頼むことができ、水を吸い取れる大型掃除機で水を吸い出し、床の裏に貼ってあった断熱材を床下に潜って外す作業をしてもらいました。泥を出し、水を拭き取り、乾燥させることができればフローリングを剥がさずに済む場合もあります。

畳の場合は、畳を捨て、床板を剥がし、床下の泥を出して床下が土であれば消石灰を撒き、床板が載っている根太という棒の泥を落として消毒、乾燥させます。風通しを良くすることです。

無垢の床板の場合、高圧洗浄機でしっかり泥を落として乾燥させれば再利用できる場合もあります。そこで、床板を外す時に、番号を振って再び同じところに床板を戻せるようにします。



ある家の改修で、最初は壁紙を張り替える予定が、カビの匂いがしたので剥がしてみると、一面カビだらけでした。そこで全ての壁を剥がしエタノールでカビを落とし壁を貼り直しました。

急いで壁紙だけ貼り替えると、後からカビが出て工事をやり直す例もあるので、壁の内側がどうなっているか確認した方が無難です。壁の内側に断熱材が入っている場合は天井近くまで水が上がる場合もあります。



食器

陶磁器・プラスチック製の食器はキッチンハイター（塩素系漂白剤）で消毒すれば使える。

衣類・着物

すぐに洗浄・乾燥させれば使えないことはない。
放置した着物はカビが生えやすい。

行政手続き

役所に行って、住宅に関しては**罹災証明**の発行を申請し、それ以外の車や資産の損害については**被災証明**を申請する。

被災証明はすぐに出るが、罹災証明の発行には時間がかかるので、早めに申請する。

罹災証明の被害判定により、その後の支援が変わってくる。（下記の支援金等）判定に不服がある場合は、再調査を請求できる。

改修業者探し

床上浸水で床や壁、トイレや台所の改修をする際施工業者を探す必要があるが、仕事が混みあうと数ヶ月待ちになることもある。

持ち家住宅の応急修理を57万円くらいまで行政が肩代わりをする国の制度があるが、業者への支払いを先にしてしまうと対象外になるので注意する。仮設住宅（住宅の無償提供）と応急修理は、どちらかしか選べないことも注意が必要。

罹災証明の受付時期に応急修理制度や住宅提供に関する説明会が開かれるので、参加して聞く。

保険手続き

保険会社に被害状況を報告し、保険が出るか確認。
証券紛失→**自然災害損保契約照会センター**に相談
0120-501331（無料）0570-001830

大規模損壊以上は**被災者生活再建支援金**などが受けられる

	家を新築・購入する場合		家を改修する場合		賃貸に転居する場合	
	基礎支援金	加算支援金	基礎支援金	加算支援金	基礎支援金	加算支援金
全壊	100万円	200万円	100万円	100万円	100万円	50万円
大規模半壊	50万円	200万円	50万円	100万円	50万円	50万円

支援金は単身世帯は4分の3の額になる。

半壊	被災者生活再建支援金は 対象外 だが、持ち家の場合、災害救助法に基づく 応急修理制度 は対象になる。（ただし、半壊の場合は所得制限がある）
----	---

このほかに、**義援金**や自治体による**見舞金**が支払われることがある

じんわり湿っているような状況で残っているものは何とか捨てたくないと思うものです。自分だと捨てられないときなどは応援に来た家族やボランティアに処分を任せの方が作業が進みます。

ただし、思い出の着物など、捨ててしまつて後悔する場合があります。後悔しそうなものだけは別にして後で考えることにし、それ以外を処分してもらうようお願いする方が良いでしょう。濡れた写真やアルバムも再生できる場合があります。

我が家の場合、被災証明は何の役にも立ちませんでした。罹災判定ですが、家の外から調査員がどれくらい浸水したかを見て全壊、大規模半壊、半壊、半壊に至らず、などの判定をします。床上1m未満で半壊という判定になると、実際には数百万円の被害なのに被災者生活再建支援金がもらえないこととなります。

判定に不服の場合は、家の中も調査してもらうのが良いでしょう。常総市では半壊が3,500世帯もあり、要望の結果、半壊世帯にも県と市の独自の支援金が出ましたが、25万円でした(この他見舞金と義援金が約55万円)。

ハウスメーカーの方が対応は早いでしょう。古い戸建ての家は、馴染みの工務店に頼むことが多く順番待ちになります。大工さんと相談した上で、畳と床板剥がし、床下の泥出しと消毒、場合によっては壁と断熱剤を剥がすところまでをボランティアなどの協力で行っておけば、その後の改修費用も軽減でき、カビによる家のダメージを減らせます。ただし自分で作業して出た石膏ボードと断熱材の処理が課題になります。



水害対応の火災保険に入っているかどうかで、大きな差が出ます。ハザードマップで自宅の浸水の可能性を確認し、危険な場所であれば水害対応に入っておくことです。

おわりに

災害の危機に直面すると、まず家族や家、車をどう守るかを考えます。ライフラインが止まり家での生活が困難になると、どこに避難するか、当たり前にあったものが使えない中での生活が課題になります、そのあと家の片づけから始まる長い生活再建への道のりが待っています。

川が近くにない場合でも、集中豪雨で周囲が冠水したり、停電や断水などはどこでも起こりえます。このガイドに掲載した常総市での経験と教訓がみなさんの災害への備えの参考になれば幸いです。

本ガイド作製にあたっては、**震災がつなぐ全国ネットワーク**が発行した「**水害にあったときに**」から引用させていただきました。

2015年9月の関東東北豪雨での常総市の被害（2016年5月20日時点）



全壊	53件	
大規模半壊	1581件	
半壊	3489件	
床上浸水	150件	
床下浸水	3067件	計8340件

罹災証明について
申請 6755件 交付 6144件
(件数の差は、重複申請によるものが多い)

住宅応急修理 申請2941件
交付3183件

義援金・見舞金配分
半壊 約55万円 全壊 約110万円

1

たすけあいセンター「JUNTOS」とは

茨城NPOセンター・コモンズは、常総市で日系ブラジル人の子どもの学習支援を行っています。その拠点が2015年9月の関東東北豪雨災害で水没しました。

代表の横田も常総市在住だったので、被災者の生活再建支援のために立ち上げたのがJUNTOSです。多言語での情報紙発行、車がない人の移動支援、孤立防止のためのサロンや相談会など行ってきました。

災害後の常総市の課題は、空き家の増大と人口流出です。JUNTOSでは空き家を改修して人が集える場をつくり、自治会と連携して次の災害に備える活動を行っています。防災パックとこのガイドブックは常総の被災経験を役立てるためにつくりました。

このガイドブックには代表の横田が水害発生前後に実際にとった行動や水害からの復旧過程で見聞きした実例をもとに編集しています。さらに、JUNTOSでは常総市の約100世帯の避難生活や生活再建までの経験、教訓を紹介する冊子『ぬくもりのバトン』も発行しています。お読みになりたい方は、下記までご連絡ください。

JUNTOSでは、水害を受けた常総市の当時の状況や復興へ向けた活動を紹介するため、視察の受け入れや出前講座を行っていますので、関心のある方はご連絡ください。

〒303-0005 茨城県常総市水海道森下町4335

☎ : 0297-44-4281 FAX : 0297-44-4291

eメール : juntos@npocommons.org

ウェブサイト : www.juntos-joso.org

